

柏西ロータリークラブ

創立：1975年11月 7日
承認：1975年11月24日

四つのテスト

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるか？



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

第1735回 通常例会(2011.10.28) 会長：安川 武年 幹事：松本 ユミ

■柏西ロータリークラブURL:<http://kashiwa-nishi-rc.com/>

■第2790地区ロータリークラブURL:<http://www.rid2790.jp/2011/>

通常例会

1. 点 鐘 安川 武年 会長
1. 会長挨拶 安川 武年 会長
1. 幹事報告 松本 ユミ 幹事
1. 卓 話 中嶋 利生 会員
1. 点 鐘 安川 武年 会長

会長挨拶

会長 安川 武年

皆さんこんにちは。

一昨日の26日に柏商工会議所創立40周年記念式典・祝賀会があり、出席しました。柏の経済を担っている商工業の経済人、また各関係団体の方が一堂に会し、盛大なパーティーでした。久し振りに旧知の面々と顔を合わせることが出来、楽しいひと時を過ごしました。

昨日は柏ローターアクトの例会があり、柏ローターアクト出身の中村佳弘直前会長が卓話をするので出席して参りました。うちのクラブからは中村会員、小生のほか、杉山新世代育成委員長、鈴木桂三R財団委員長、森市出席委員長、松本幹事の6人が参加しました。柏ローターアクトクラブのメンバーは3名、OBの白石さん、浮ヶ谷さんの2名が参加してくれました。

中村さんが入会したきっかけ、当時の例会模様、クラブ運営上の財政の問題、当時は40人～50人のメンバーで

活動していた事、等々熱く語って頂きました。

最盛期に比べ、余りにも衰退している現状をどう立て直すかなかなか名案がありません。一通りの卓話が終わり終了のゴングが鳴るのだらうと思っておりましたら、話半ばでシリアスな対話の場と化しました。中村さんはアクトOBだけあって、真剣な突っ込んだ問いかけをしていました。現役のメンバーは返答に窮して、タジタジでした。終了後場所を替えて居酒屋で“ノミネーション”をやりましたが、発破を掛けられた彼らは感謝していました。

11月18日(土)、19日(土)は東北の被災地方面へ親睦旅行に出掛けますが、この地域復興支援策として、三菱商事会長・小島順彦氏が、「さらば円高悪玉論」と題する文芸春秋最新版の寄稿文の中で、東北地方被災地で復興の柱として農水産業の「復興特区の設置」を考えるべきと提言しておられます。また伊藤忠商事や衣料品会社40社が提携して津波被害農地で綿花の栽培を薦め、収穫した綿花を買い取り、衣料品などに商品化するプロジェクトを推進しております。津波で塩害を受けた水田では、米が作れず、塩に強く安定して収穫が確保できる綿花は、生計を立てにくい農家にとっては大きな復興支援になることと思います。

総合商社の発想、展開はメーカーのそれと違いがあるのかなと感じさせる話です。

幹事報告

幹事 松本 ユミ

1. 例会変更のお知らせ
 松戸RC；11/9(水)は「創立55周年記念例会」に変更
2. 受信《活動計画書》流山中央RC



例会日/金曜日 12:30～13:30

例会場/ザ・クレストホテル柏

〒277-0842 柏市末広町14-1

TEL.04-7146-1111 FAX.04-7146-2100

事務所/〒277-0011 柏市東上町7-18

柏商工会議所会館 505

TEL.04-7162-2323 FAX.04-7166-8282

E-mail:kashiwanishi@io.ocn.ne.jp

昨年7月に、金子会員の紹介で会員になりました、中嶋です。彼とは5年位前からゴルフの仲間というより師匠として、月2ペースでゴルフをしています。

なかなか彼は教え上手ですので、皆さんも機会があれば気軽に見てもらうとスコアUPになると思います。

さて私の仕事は、名簿上小売になっておりますが、以前は不動産管理がメインでした。10年前私の趣味が嵩じまして、タックルベリーと言う中古と新品を扱う釣具店を開業、開店をしまして現在、柏、千葉、松戸、水戸にて営業しております。当時、海釣り専門に年間30回程度行っておりましたが、金子会員と知り合い、現在はゴルフ専門になりました。釣りは年3~4回程度に大幅縮小となりまして、家族からはゴルフばかりでなく、たまには釣りに行っておいしい魚を食べさせてと言われております。また靴下屋というショッブも7年前より展開いたしており、そんなこんなで4年前、釣具店、靴下販売等が会社の主体になりましてビタミンユーの小林会員のお世話で、社名、デザイン、ロゴの変更をいたしまして今日の(有)ナビックに至っております。余談ですが、今洪水で水浸しとの報道がテレビ等で報道されていますタイに旅行代理店、レンタルコミック店を2店を営業しております。報道の浸水の件についてはタイ国際空港、バンコク市内は浸水はない状況、バンコク市内では屋台も出ていますし平穏とのことです。タイの旅行業ですが、在タイの日本人をメインに営業をしております、タイでは特に日本からなかなか行けないセイシェル、マダガスカル、モルディブ等が人気で次にバリ島あたりになります。皆さんタイに行く時には声をかけていただければホテル、ゴルフ等日本の旅行会社の6掛け程度のお金で予約を取れますのでご利用いただければとおもいます

今日の卓話ですが、仕事の関係上、釣り、靴下屋と考え、釣りの話をしてもつまらないので、靴下の歴史のお話をしてみようかと考え原稿を書いてまいりました。靴下屋、仕入れ先の会社は(株)タビオと言いまして、今年4月にカンブリア宮殿で紹介されたのでご存知の方もおられるかと思いますが、まさに靴下のみ販売です。その靴下の歴史は非常に古く、紀元前2~3世紀アラビア人が作った物とされています。素材は皮、麻が主流でアラビアの高温、岩場等での足を衝撃や乾燥から守る必要がありました。当然靴も、皮です。その後西洋に伝わり、乗馬などの小道具として発展していきます。靴下の発展は、獲物をとる狩りや、防寒衣料として必要性にせまられ広がった物と言えます。

又、キリスト教が広まりますと聖職者が、足を不浄な大地に付けない為に着用し、布教活動とともに更に広がっていきました。その靴下の素材ですが、【Q 繊維と

して一番古い物、何でしょうか?】

【A 麻です。麻から始まり、綿、毛、絹と用途により使い分けられていきました。】

日本では一番古い靴下1300年位前に中国から伝わり、素材は絹。皆さん、なんと言うかご存知ですか?答え(しとうず)といいます。日本の靴下のルーツです。奈良飛鳥時代に、中国からの影響により、貴族階級のみ使用する襪(しとうず)というもの身に着ける文化が入ってきました絹で作られた、足にかぶすようなものです。足袋と違い足の分かれ目がないもの、この時代テール文化でしたので使用されましたが、平安時代になりますと、この襪(しとうず)廃れました。何故?靴を脱ぐ、まだ畳は在りませんがござ敷きの床上様式に変わったからです。ようするに靴の変遷、変化により靴を脱ぐ煩わしさを解消するため日本人はこの時期から概ね下駄、草履の類に変化をしました。当然足に履くものは足袋に移行しました。平安時代、鎌倉、室町時代を通じ明治にいたるまで日本ではこの足袋が海外と違う形で独自文化で使用されていたのです。しとうず。島根県にあります、出雲大社では未だ使用されております。

さて、ヨーロッパ様式と申しましょうか、現在私たちが履いている靴下、何時、【Q 誰が日本に紹介したか? またまた問題です。】

【A 正解。1549年鹿児島にやつて来ました、スペインの宣教師フランシスコ・ザビエルと言われてます。】当時靴下の名はメリヤスと言いました。時は戦国。1543年には種子島に火縄銃が二丁伝わりました。ヨーロッパから様々なものが紹介され日本に根づきます。たとえば皆さん良く聞く言葉、マント、ピロード、カップ、ボタン、ラシヤ、カステラ、天ぷら、金平糖等々ですね。特にこの時代、織田信長が好んで使っていたようです。織田信長、映画、テレビの歴史などで、皆さん蜜にしているかと思いますが、戦いの時、南蛮服を着てます。鎧、兜なども西洋のものを好んでいました。当時、戦国の武将にとってラシヤ、ピロードで仕立てた衣服はステータスでした。織田信長は黒人も使用人として侍らしていたそうですから。相当な西洋好き、かぶきものです。靴下についても、先ほど述べたとうり、糸で編んで作られた靴下、この当時多めに履かれたようです。ただし一般には全く広まりません。下駄草履社会、靴を脱ぐ畳文化のため、要するに面倒だからです。

さて、またまた問題です。【Q 現存する靴下で日本最古の靴下があります。誰が履いていたのでしょうか?】

【A 正解。水戸黄門です。昨年、日本橋高島屋が、開業77周年の催事で靴下の歴史展を行いました。そのとき紹介されたんです。水戸黄門はラーメンも食べたとか?新しもの好きで有名ですよ。】

そして時は流れ、日本に足袋ではなく今と同じような靴下が使われる機会が巡ってきました。明治維新です。世は文明開化、庶民にも、お金持ちですが、西洋の



スーツ、靴がはやり、応じて、靴下の利用がさかんになりました。

靴下生産も盛んになり、奈良県にその工場が今も集中していますが、その最大のお客は軍隊でした。徴兵制度により国民皆兵、広く日本中に知れ渡りました。海軍カレーと一緒にですね。そして第一次世界大戦、戦争によりヨーロッパのあらゆる産業が壊滅。日本の靴下の輸出が、靴下に限らずですが、ほぼ、ありとあらゆる産業の基礎、基盤がこの第一次世界大戦で輸出ということで大きく成長し、形成されました。当時は、現在の靴下と違いスフ（人絹）綿が主流、穴があきやすく、また色も単色ですので、今のようなカラフルなものではありませんでした。ただ言えることはこの大戦により日本の靴下の歴史が始まった、靴下産業がはばたくようになったと言えます。

第二次世界大戦後、靴下の素材が大きく発達しました。戦後強くなったのは靴下と女と言われました。ナイロン、摩擦に強いです。ポリウレタン伸縮性に富みます。様々な新素材が開発され、暖かくする素材、吸湿性のよい素材等、カラフルな色合いもまた進化しました。

また素材とは別に用途別にも靴下は変化いたしました。男性用には、土木、建設関係に人気の5本指の靴下、（水虫が治るといわれます）スポーツ用の靴下、ビジネス用の靴下、男物はこんなもんです。女性には多くの種類、オーバーニー、タイツ、レギンス、トレンカ、ハイソックス、また足の指にかぶせるトング、ブーツの外飾りてきなレッグウォーマー、カバー等、様々です。まさに靴下は典型的な女性上位、女尊男卑、女に生まれてよかったなのです。

皆様、話を聞いてそんなにたくさんの用途、種類があるのかと確認したい男性の方、おたかの森SC、柏高島屋にて確認をしてお買い求めください。女性の皆様、自費でお買い求めください。以上靴下のお話でした。

出席報告

会員数 54名

欠席者 12名

岡田、ゲイビ、小阪、佐藤
東海林、染谷、高田、塚本
中村、富士川、村田、渡邊
各会員

出席率 88.52%

ビジター

松本隆一郎 様

ニコニコ

BOXありがとう！

★写真ありがとう！

湯浅 会員

五十石 会員

次回の例会は11月18日(金) 移動例会です。
クラブ会報委員／湯浅 千晶・東海林 康之・中嶋 利生・小林 太時

欠席報告は、水曜日の正午まで

※食事の無駄をなくす為に協力して下さい。
榎 隆夫 090-9005-8627まで

